

令和6年度 四国地方整備局インフラDX 推進本部会議

令和7年2月25日(火) 10:30～11:30



四国地方整備局



SHIKOKU
INFRA
DIGITAL
TRANSFORMATION

四国地域において、地域住民のニーズを基にデータとデジタル技術を活用し、社会資本整備や公共サービスの改革を推進すると共に、業務そのものや、組織、プロセス、建設業や四国地方整備局の文化・風土や働き方を改革し、建設業の生産性の向上を図ると共に、インフラへの国民理解を促進し安全・安心で豊かな生活を実現するため、各部局が横断的に連携してインフラ分野のDXを推進することを目的に、「四国地方整備局インフラDX推進本部会議」を設置する。

令和3年8月24日設置

四国地方整備局インフラDX推進本部会議

※既存「i-Construction推進本部会議」を改編

[本部長] 局長 [副本部長] 次長、次長（兼総務部長）

[本部員] 企画部長、建政部長、河川部長、道路部長、港湾空港部長、営繕部長、用地部長、統括防災官

四国地方整備局インフラDX推進本部会議幹事会

[幹事長] 企画部長 [副幹事長] 企画調査官

[幹事] 総括調整官（建設）、広報広聴対策官、技術調整管理官、技術開発調整官、建設産業調整官、河川情報管理官、道路情報管理官、事業計画官、官庁施設管理官、用地調査官、総括防災調整官、四国技術事務所長、高松港湾空港技術調査事務所長

インフラDX推進部会

総務部会

建政部会

河川部会

道路部会

港湾部会

営繕部会

用地部会

防災部会

連携

関係業界団体
大学、高校
県市町村

インフラDX人材育成センター

四国ICT施工活用促進部会

連携

四国地方公共工事品質確保推進協議会

四国地整新技術活用評価委員会

総合評価委員会

※令和6、7年度以外は幹事会の記載を省略

令和3年8月24日(火)	令和3年度 第1回 四国地方整備局インフラDX推進本部会議(WEB) 1. 四国地方整備局インフラDX推進本部会議の設置 2. 【講演】「建設現場における生産性向上、DXの推進に向けた取組」(一社)日本建設業連合会
令和4年3月15日(火)	令和3年度 第2回 四国地方整備局インフラDX推進本部会議(WEB) 1. 四国として進めるインフラDXの方向性 2. 各部会の取組み
令和5年3月14日(火)	令和4年度 四国地方整備局インフラDX推進本部会議(WEB) 1.各部会のロードマップの令和4年度の実施状況と令和5年度の予定
令和6年3月21日(木)	令和5年度 四国地方整備局インフラDX推進本部会議 1.四国のインフラDXの取組み状況と令和6年度の予定
令和6年6月12日(水)	令和6年度 第1回 四国地方整備局インフラDX推進本部 幹事会 1.各部会のDXの取組み状況と令和6年度の予定 2. 職員向けのDXの推進について
令和6年12月5日(木)	令和6年度 第2回 四国地方整備局インフラDX推進本部 幹事会
令和7年2月4日(火)	令和6年度 第3回 四国地方整備局インフラDX推進本部 幹事会
令和7年2月25日(火)	令和6年度 四国地方整備局インフラDX推進本部会議 1. 規約改正 2. インフラDXの取組み状況と7年度の方針

令和7年春、秋 令和7年度 四国地方整備局インフラDX推進本部 幹事会

このほか必要に応じ幹事会、推進部会等を開催

令和7年度末 令和7年度 四国地方整備局インフラDX推進本部会議、幹事会

四国地方整備局インフラDX推進ロードマップ

挑戦

方向性		R5年度まで、躍進	R6年度 展開	R7年度 実践	R8年度	R9年度
地域建設業の担い手確保	生産性の向上 (デジタル技術の活用促進)	i-Constructionの推進 ▶点検支援技術活用の原則化 ▶PASの試行 ▶点検ロボの活用(港湾・橋樑部) 遠隔臨場の試行 BIM/CIMの適用拡大	i-Construction2.0 ～ICT施工ステージⅡ ▶点検ロボの活用(港湾・水中部) 遠隔臨場の実装、 BIM/CIMの普段使い	建設現場の生産性2割向上 i-Con2.0:2040年までに3割の省人化 ICT土工、ICT浚渫工(河川)の原則化 ▶ICTを活用した計測技術の向上 ▶デジタルデータを活用した監督・検査の試行 ▶BIM/CIMデータの施工管理等への活用拡大 遠隔臨場を検査に拡大		
	人材育成 環境整備	受発注者研修等 ▶ICT講習の拡充、民・学へ拡大 DXルームの整備、高性能PC等の段階的配備、高速通信網等の環境整備 ▶一部事務所無線LAN,高速通信網化 DXセンターの整備	受発注者研修等の拡充 (ICT活用、BIM/CIM、UAV等) ▶DXの普段使いに向けた研修等の充実 ※当面は、既存施設・機材等で研修等実施			
	関係機関との連携	関係機関との連携強化 (アドバイザーの拡充、コミュニケーション等) 関係機関との協働 (新技術活用モデル工事等) ▶第1弾DXモデル工事 ▶DXモデル工事拡大	▶DXモデル工事継続			
	広報の推進	『新しい“カッコイイ”建設業』をPR (動画作成、見学会等の開催、マスコミへのPR等) ▶建設DXのPR動画公開 ▶建設現場の見える化始動	▶オフィシャル広報 ▶パートナー制度スタート	▶i-Con2.0、ICT、BIM/CIM等を積極活用するモデル事業(工区) 設定 ▶BIM技術等を活用した現場見学研修で技術力向上		
行政手続きや暮らしにおけるサービスの改革	サービスの改革	行政手続きの電子化等 (許認可業務の電子化、効率的な審査方法等)・サービスの改革 ▶河川許可の電子申請化拡大 ▶工事・業務成績評価WEB公表開始				
	オープンデータ化	デジタル技術の活用によるイノベーションの推進 ▶三次元管内図の整備 (河川管理システム構築)		▶河川流域データプラットフォームの整備		
四国地方整備局職員の働き方改革	働き方改革	WEB会議の標準化、RPA導入による業務の自動化・効率化 ▶RPAの活用拡大		▶Teams、Forms、RPAの業務活用の浸透		
	管理の高度化	河川管理・道路管理・港湾技術等の高度化・効率化 ▶DXモデル出張所(国道)の環境整備		▶ドローン、AI等を活用した管理の高度化		
	災害対応の高度化・効率化	災害対応の高度化・効率化 (情報収集・分析・共有、自治体支援活動) ▶ドローン隊拡大 ▶TEC-FORCEアプリの実践		▶ドローン調査結果の活用		

四国で進めるインフラDXの取り組み

令和6年度は生産性向上／デジタル技術活用促進等「48」の取り組みを展開
ICT施工の構造物工への拡大やBIM/CIMの活用、各種デジタル技術の普段使いが広がりつつある。
令和7年度は、デジタル技術の「普段使いの拡大」を目指し、DXを「実践」していきます。

3つの方向性／48の取組※

方向性	取組数
Ⅰ.地域建設業の 担い手確保	1.生産性向上／デジタル技術の活用促進 16
	2.人材育成環境整備 2
	3.関係機関との連携 2
	4.広報の促進 2
Ⅱ.行政手続きや暮らしに おけるサービスの改革	1.行政手続きや暮らしにおけるサービスの改革 3
	2.オープンデータ化 2
Ⅲ.四国地方整備局職員の 働き方改革	1.四国地方整備局 職員の働き方改革 6
	2.管理の高度化 11
	3.災害対応の高度化・効率化 4
計	48

地域建設業の担い手確保

人材育成・
環境整備

生産性向上
デジタル技術の
活用促進

関係機関と
の連携

広報の促進

行政手続きや暮らしに おけるサービスの改革

行政手続きや
暮らしにおける
サービスの
改革

オープンデータ
化

四国地方整備局職員の 働き方改革

管理高度化

災害対応の
高度化・効率
化

四国地方
整備局職員の
働き方改革



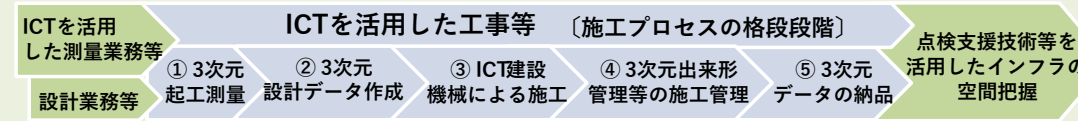
「地域の守り手」として持続可能な建設業界
にしていくために実践する3つの方向性

四国で進めるインフラDXの取り組み（代表事例）

地域建設業 担い手確保：生産性の向上 ICT施工の推進で生産性向上

- ICT活用工事は年々増加。近年では、ICT構造物工などの新たな工種が増加傾向
- 今後も様々なICT施工を継続して推進するとともに、施工のオートメーション化などの生産性向上に取り組む

ICT技術を活用した施工の推進 【各工事関係部会】



ICT活用工事件数の推移【四国】

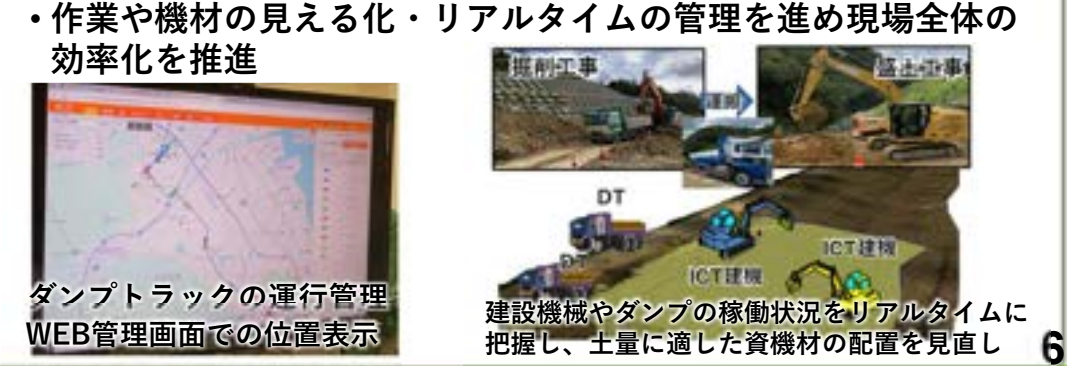


全面的ICT活用による作業の効率化【河川部会】

- 敷均し、転圧、整形と全面的ICT施工を活用することで、施工が劇的に効率化



個別事例 施工データ（見える化）の活用（ICT施工Stage IIへ）



四国で進めるインフラDXの取り組み（代表事例）

地域建設業 担い手確保：生産性の向上 BIM/CIMを用いて効率化

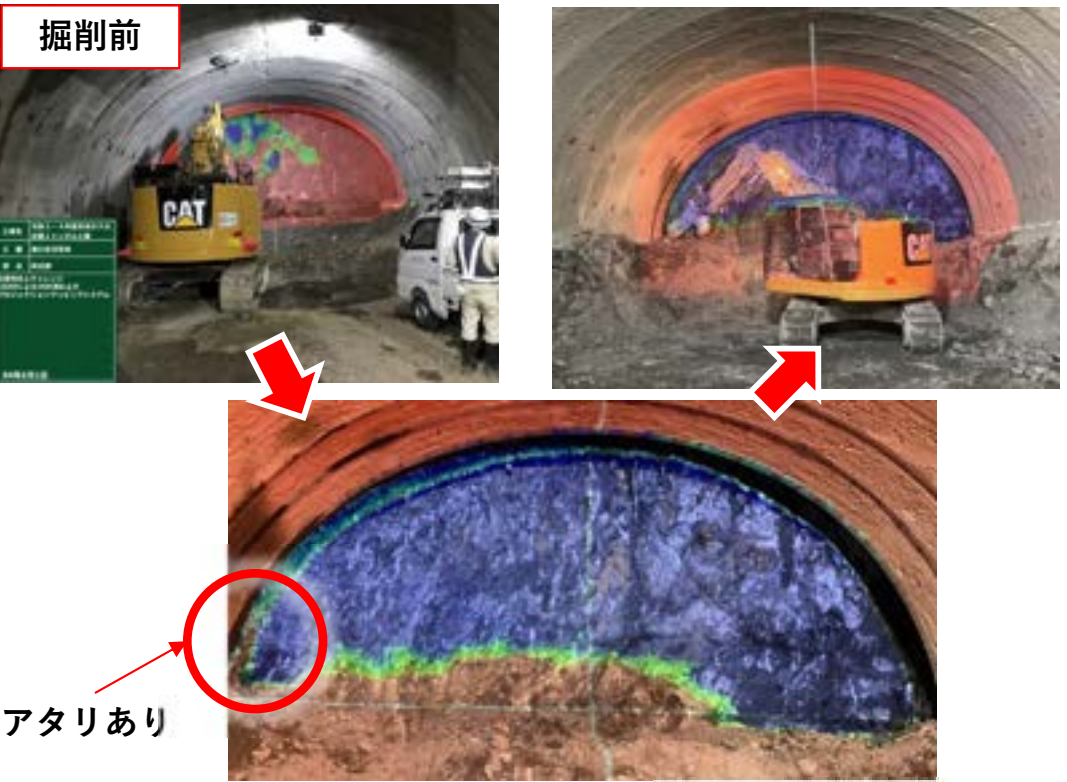
- ・ BIM/CIMの利活用によりデータ連携、品質・生産性向上を目指す
- ・ BIM/CIMデータの施工管理等への活用を広げ、生産性向上を進めていく。

効果 ・・・ BIM/CIMの利活用を進めることで、情報一元管理をはじめ、作業の省力化・効率化が期待される。

BIM/CIMの原則適用（普段使いへ）

個別事例 LiDARとプロジェクションマッピングによる掘削アタリ表示

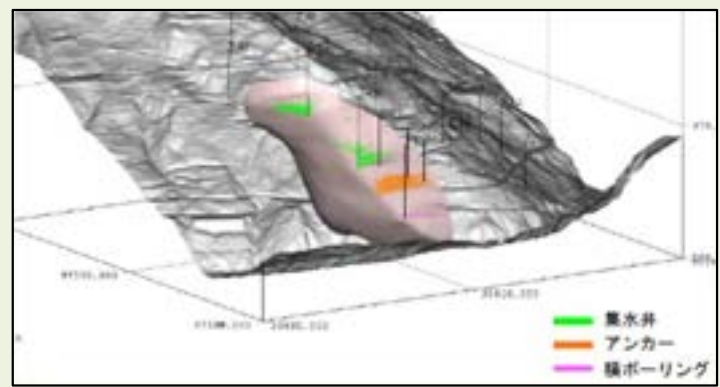
- ・ 掘削のアタリ確認や建込位置の確認作業を作業員の目視に代え、「LiDARによる3D計測システム」によりアタリの範囲を計測し、その情報をマッピング表示。



（事例：241219_BIMCIM活用工事）

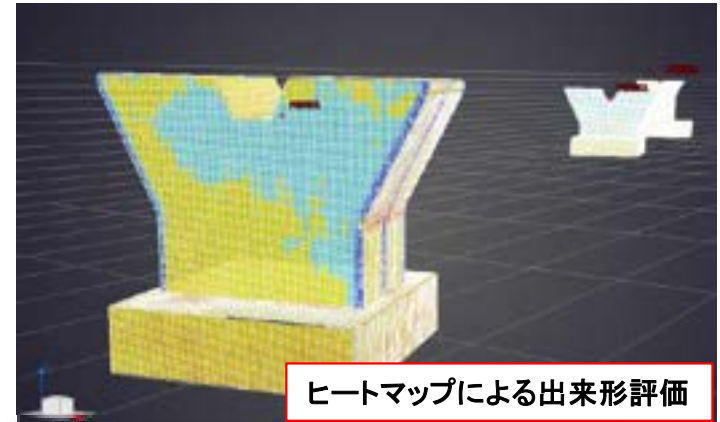
CIMを活用した地すべりブロックの3次元化【河川部会】

- ・ CIMを活用し地中情報と地すべり防止施設の位置関係を3次的に表現し、配置計画の検討や対策の各段階で活用



個別事例 橋脚躯体の3次元計測技術を用いた出来形管理

- ・ 橋脚躯体の出来形管理について、3次元計測を行い、ヒートマップによる出来形評価及び点群からの寸法計測手法により管理



（事例：R6ICT活用工事事例集）

四国で進めるインフラDXの取り組み（代表事例）

地域建設業 担い手確保：生産性の向上 デジタル技術の展開～普段使いと新たな挑戦～

- 生産性、働き方改革に資する新しい技術を積極活用していく
- 導入が始まっている各種技術は普段使いへと活用場面を広げていく

効果

- ICTや各種技術の普及により作業時間の短縮による生産性向上やテレワーク等の新しい働き方へとつながることが期待される

ICT・DXの活用が拡大【各工事関係部会】

デジタル技術の活用拡大（R5／R元）



※モニタリング対象とした四国内の約150社の工事完成書類より各技術の利用率を抽出（対象の有無もあり100%となるものではない）

(事例：電子黒板、クラウドサービス)

個別事例 ワンマン測量システムと連携した遠隔臨場

- ワンマン測量システムのタブレット上での数値確認と遠隔臨場を組合せ、確認の手待ち時間削減や確認書類の簡素化を実現

ワンマン測量

(事例：ICT活用工事事例集)

遠隔臨場

効果

- 確認書類の簡素化
- 段階確認の待ち時間削減

〔Topics〕 建設ディレクターやテレワークサポートによる生産性向上

- 建設ディレクターやテレワークサポートを採用し、現場技術者の書類作成時間、残業時間を削減

今まで 現場の中でやり取り

(事例：ICT活用工事事例集)

これから 作業を分け合う

〈建設ディレクター〉

〈テレワークサポート〉

四国で進めるインフラDXの取り組み（代表事例）

地域建設業 担い手確保：生産性の向上

維持管理・点検分野もDX技術で作業効率化

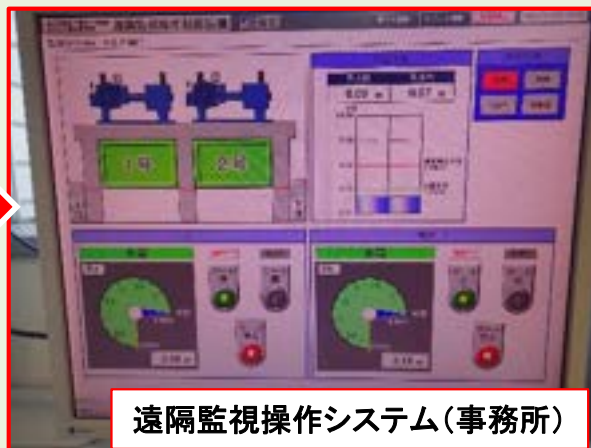
- ・ドローン、高感度望遠鏡、レーザー等を活用した新たな点検支援技術の現場実証を継続。
- ・維持管理、点検等の高度化・効率化を図る

排水機場・樋門等の遠隔操作化・無動力化【河川部会】

- ・遠隔臨場で現地の人手を不要とする
- ・自動化や無動力化で効率的な維持管理



機側操作盤



遠隔監視操作システム(事務所)

点検支援技術活用による道路点検の効率化【道路部会】

3Dレーザスキャナによるデータ取得状況

■点検支援技術の例
(トンネル)



効果

- ・損傷のチョーキング、スケッチなどの作業時間の短縮
- ・高所作業が不要となり、安全性が向上
- ・スケッチやひびわれ幅計測の個人差を解消され、品質向上

点検ロボを活用した港湾施設の維持管理【港湾部会】

- ・安全性と生産性の向上
- ・点検ロボで撮影した画像等をBIM・CIMの属性データとして登録し、維持管理の効率化を図る

Before

現在の施設点検
潜水士による鋼構造物
の目視点検



潜水士による目視点検

After

点検ロボを活用した施設点検
水中ドローン等をはじめとした点検ロボを
活用し、維持管理を効率化



水中ドローン
(ケレンイメージ)



水中ドローン
(肉厚測定イメージ)

(写真提供：令和3年度神戸市海プロジェクトにて実施)

四国で進めるインフラDXの取り組み（代表事例）

行政手続きや暮らしにおけるサービスの改革 オープンデータ化

- 行政手続きの電子化を推進し利用者等の利便性・サービスの向上を図る
 - 行政情報のデジタル化とデータのオープン化を進めていく。
- 効果**

 - 利便性向上による行政や市民サービスの向上
 - データのオープン化による新たな可能性を創造

データプラットフォームによるデータ連携社会を構築

地図・地形データ

気象データ

交通（人流）データ

施設・構造物データ

エネルギーデータ

防災データ

国土交通データプラットフォーム

新技術×官民データ

高度な防災情報

3次元化都市データと洪水予測を連携した防災情報の提供し避難行動等を支援。

（出典：荒川下流河川事務所）

新たなモビリティサービス

インフラと交通データの連携により最適な移動手段提供等、新たなサービスを実現。

（出典：トヨタ自動車e-palette）

新しいインフラ社会

インフラ自体が情報を持つことで施工や、維持管理が高度化されるインフラ社会の実現。

（出典：出典：東急建設株式会社）

河川法に係る許可申請の電子申請【河川部会】

●従来は、来庁の上うえ申請

申請者 → 本局・事務所HPにて申請専用アドレスを公表

申請 → 担当事務所・管理所、担当出張所、担当出張所、担当出張所

四国地方整備局 河川法に係る許可申請書について（電子メールによる申請書の受付窓口）

河川法に係る許可申請書は、河川法に定める申請書に基づき、電子メールによる申請書の受付窓口を設けています。電子メールによる申請書の受付窓口は、河川法に定める申請書の受付窓口となります。電子メールによる申請書の受付窓口は、河川法に定める申請書の受付窓口となります。

3D都市モデル（Project PLATEAU）高松市（2022年度）

- 3D都市モデルを誰でも利用可能
- 都市計画立案の高度化や、都市活動のシミュレーション、分析等を行うことが可能

香川県 高松駅

（出典：G空間情報センター）

四国で進めるインフラDXの取り組み（代表事例）

四国地方整備局職員の働き方改革

職員の仕事もDX技術で効率化・高度化

- ・ RPA導入などによる業務の自動化や効率化を推進。また災害情報の収集効率化をはじめ日常管理の高度化・効率化を推進する。

- 効果**
- ・ RPA導入を進めることによる職員の働き方改革（省力化）
 - ・ 勉強会を通じた活用の展開

RPA等の導入による効率化について 【総務部会等】

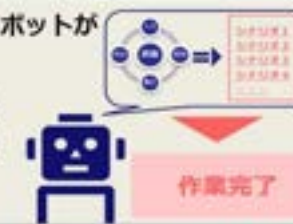
■RPA導入状況の紹介

- ・ 開示決定通知書の自動作成（総務部会）

これからは、ソフトウェアロボットが自動的に実行へ

（例）

- ・ RPA（ロボット）が紙の帳票を読み取り、電子データ化
- ・ 電子データやExcelデータを自動で既存システムへ入力



作業完了

RPA活用等数(累計)

年度	活用等数	前年比
R3年度	15	-
R4年度	24	前年比 1.6倍
R5年度	32	前年比 1.3倍
R6年度	34	前年比 1.1倍

RPAの活用数推移（総務部会）

〔Topics〕 職員の働き方改革への取り組み

■勉強会等の開催（一例）

開催日	対象・人数
DX勉強会(職員向け) 令和6年4月25日	134名
RPA勉強会（事例紹介） 令和6年6月12日	109名
RPA勉強会 令和6年8～10月	本局（総務部、建政部、用地部）約20名
事務効率化勉強会 令和6年10～11月	8事務所対象 約80名

BIM/CIM導入・運用を支援するチャットボットの導入【人材育成センター】

（令和6年度 四国地方整備局管内技術・業務研究発表会 優秀論文）

▼学習支援システムを活用

聞きたいワードを入力

地形モデル

使用者

四技チャットボット管理者

地形モデルについてですね。
以下から項目を選択してください。

BIM/CIM活用のための地形モデルの利用について教えてください

効果

- ・ チャットボットの学習支援システムによりBIM/CIMを効果的に活用できる

利便性

- ・ 職員が普段使用しているTeams内で利用でき利便性が高い。

今後の予定

- ・ 利用者の拡大。
- ・ 人間的な対話の向上、FAQの充実に关して生成AIの組み込みを検討

■アンケートから見える職員の声

勉強後のアンケート回答（39名）

- ・ Teamsのいろんな使い方を知ることが出来た。。
- ・ 使ったことがなければ、なかなか使う機会が無いので、今後も受講したい。などの声があがった。



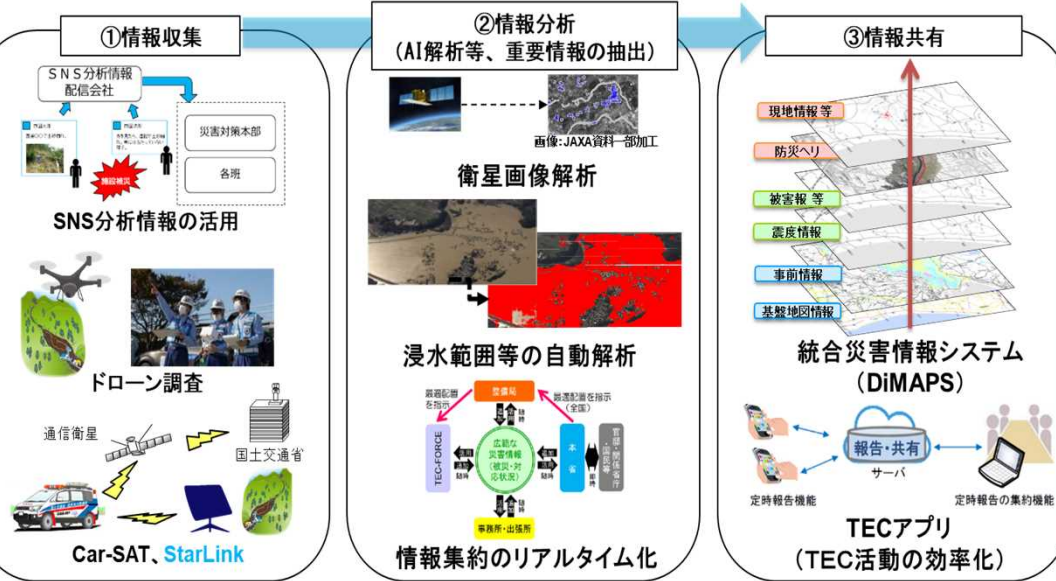
・ 勉強会等を通して、身近な利用へと活用が広がっている。
令和7年度も継続して開催

四国で進めるインフラDXの取り組み（代表事例）

四国地方整備局職員の働き方改革 防災対応もDX

- 災害時の対応の迅速化、また限られた人数で最大限の対応ができるよう省力化を実現するにあたり、災害情報の収集・分析・共有の高度化・効率化を推進する。

防災DXの取組み全体イメージ【防災部会】



- ①情報収集**
既往のツールに加え、**SNS投稿の分析情報を活用**するなど、迅速な被害情報収集ツールを拡充
- ②情報分析**
情報分析では、**AIを用いた浸水状況自動検出システム等により分析をリアルタイム化**
- ③情報共有**
四国版DiMAPSを活用し、関係機関との情報共有体制を強化

情報連携の迅速化

大規模地震発生時の初期情報（30分ルール）の集約方法の見直し

- Formsの活用【防災部会】
- 効果
 - 被災情報を多く集められる
 - 被害種別 ☒ するのみで参集に専念が可能（負担軽減）
 - EXCELで地域別に取りまとめられ、報告まで時間がかからない（迅速化）



ホットライン情報の集約方法の見直し

■Lists（簡易データベース）及びRPAの活用【防災部会】



- 効果
 - Form選択内容により相手方名等は画一的に自動設定
 - RPAでのメール送信（周知）による誤送信防止
 - 1つのデータベース(Lists) 共有により時間ロスゼロを実現。状況の共有による確認漏れも防止。

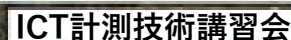
地域建設業 担い手確保：人材育成

内外に向けDXやICT等の多彩な研修等を実施

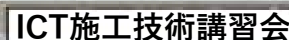
- ・ 技術の普及に向け、行政職員向け研修や、建設会社向け研修を実施
- ・ 令和7年度もDX技術の普段使い、情報リテラシーの向上に資する多彩な内容の研修を継続

- ・内外に向け、ICT活用の様々な講習会を実施

発注者(地整・自治体)



TLSによる起工測量（実習）



3次元データ作成（演習）

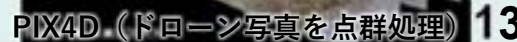
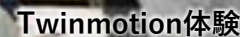
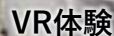
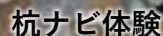
◆「DX出前授業・DX職員研修」のメニューを活かし
職員が日常使い

操作体験

出前授業(大学・高専)

・建設分野の最新技術にふれることにより、デジタル技術の活用事例を知り、学びのきっかけとして新たな可能性を発見する機会

・11/22 高知工科大学	・12/13 香川高専
・12/18 愛媛大学	・12/23 阿南高専



四国で進めるインフラDXの取り組み（代表事例）

地域建設業 担い手確保：広報の推進

多様な広報を実施

◆四国管内の“旬”な現場の紹介を通じ 建設業の面白さを伝える

- DX関係技術、変化する建設業をメディアや見学会を通じて広報
- SNS等を通じて発信し、若い世代へ身近なものとして興味を引き出すオフィシャル広報パートナーとの連携
- 引続き、カッコいい・魅力ある四国の建設業の広報を、関係機関と連携し実施



普段入る事の出来ない工事現場やインフラ施設など
今が旬の“**推し現場**”を見学できる取り組みを実施！

現場へ行こう！ホームページ



現場へ行こう！ロゴマーク

現場へ行こう！サイト

◆DX技術や変わる建設業を現場見学会等を通じ広報



◆インフラDXモデル工事参観日/見学会開催（R6/7/26、27）

- 『建設DX参観日』地元小学生16名と保護者15名が参加
- 『インフラDXモデル工事見学会』四国内の建設業者等75名、徳島県内公共工事発注者27名が参加

（徳島県阿南市）



建設DX参観日記念撮影



GX建設機械の
「電動バックホウ」

◆四国地方整備局オフィシャル広報パートナー制度

次の担い手へつながることを目的に、建設産業の魅力等についてSNSを通じてわかりやすく情報発信してもらう、**四国地方整備局オフィシャル広報パートナー**を設置！



四国地方整備局オフィシャル
広報パートナーロゴマーク

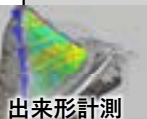
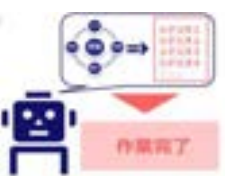


インフルエンサーによる現場紹介

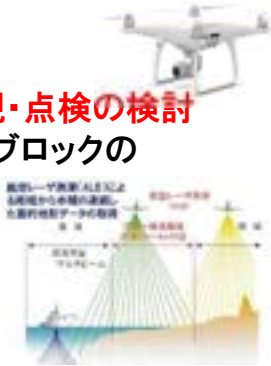
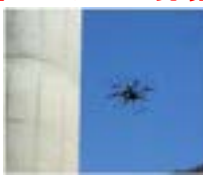


「現場へ行こう！」インフラDXモデル
工事見学会in徳島へ！ - YouTube

※各項目ごとに令和5～9年度間のロードマップを作成

部会	地域建設業 担い手確保	行政手続きや暮らしにおけるサービスの改革	四国地方整備局 職員の働き方改革
インフラDX 推進部会	人材育成（体験・体感、技術支援）  3次元設計図  出来形計測		人材育成（体験・体感、技術支援、職員向けDXの推進）  BIM/CIM研修
	最新技術を活用したモデル工事		RPA等の導入（競争参加資格確認審査資料の作成、積算自動チェック等） 
	- 広報の取り組み - 建設現場の見える化  		DXモデル出張所(国道)の環境整備
	- 業務での情報共有システム(ASP)及び閲覧システム(クラウド)の活用 - パワーアシストスーツの普及促進 - 排水ポンプ車状態監視装置の整備 - 機械設備の点検合理化技術活用 		RPA等の導入による効率化（通勤手当の経路検索作業の自動化、情報公開に関する通知書の自動作成、振込通知メール送信の自動化等） 
総務部会			
建政部会	1. 讃岐まんのう公園の運営維持管理の効率化 草刈りの自動化・無人化 	- 入園料徴収の自動化・無人化等  - 次世代モビリティの導入 	AI画像解析による倒木危険予知、害獣侵入把握 
			2. 自治体のスマートシティ推進を支援 
		3. 審査業務、打合せ等の効率化 許認可業務の電子化推進	WEB会議システム等を活用した効率的な審査方法の検討

※各項目ごとに令和5～9年度間のロードマップを作成

部会	地域建設業 担い手確保	行政手続きや暮らしにおけるサービスの改革	四国地方整備局 職員の働き方改革
河川部会	・UAVを活用した河川巡視 ・ダムでのUAV、CCTV (AI解析)を活用した巡視・点検の検討 ・CIMを活用した地すべりブロックの3次元化 ・マルチビーム、グリーンレーザ等を用いた地形測量 ・排水機場・樋門等の遠隔操作化・無動力化 ・砂防現場DX—無人化施工 	・許認可業務の電子化推進 (各種申請手続きの簡略化)  ・河川流域データプラットフォームの整備 ・越流等検知装置の開発 ・ワンコイン浸水センサ実証実験 	・AIを活用したダム管理の検討 ・デジタルツインによるダム管理の高度化・効率化 
道路部会	・点検支援技術活用による点検の効率化 ・施工者提案を積極採用により工事定形作業の効率化(施工者提案の積極採用、地元企業の特徴を生かしたDX現場見学会)  		・交通障害自動検知システムで道路異常の早期発見 ・VRを活用した臨場感ある研修で技術力向上  
港湾部会	・点検ロボを活用した港湾施設の維持管理 ・ICTを活用した計測技術の向上 ・CIMデータを活用した航路維持管理 (BIM/CIMデータの施工管理等への活用拡大)  		・DXモデル出張所 (国道)の環境整備

※各項目ごとに令和4～8年度間のロードマップを作成

部会	地域建設業 担い手確保	行政手続きや暮らしにおけるサービスの改革	四国地方整備局 職員の働き方改革
営繕部会	- 生産性向上技術の導入促進(BIM、ICT建築土工を活用した施工の試行) - 情報共有システム(ASP)の活用 - ICT建築土工の採用により定形作業を効率化 - EIR * を適用したBIM活用の運用 - MR技術を活用した臨場感ある研修で技術力向上 - 遠隔臨場を活用した官庁建物実態調査の効率化		- 遠隔臨場を活用した監督業務、官庁建物実態調査等の効率化(監督検査・施工管理のデジタル化・リモート化) - MR技術、BIM技術を活用した臨場感ある研修で技術力向上
用地部会			- RPA等の導入による事務の効率化 (RPA: 入札説明書等の作成、用地調査等業務の業者選定資料作成補助用) (VBA: 用地調査等業務の成果データの活用) (Teams、Forms、RPAの業務活用の浸透) - BIM/CIMと連携する用地情報
防災部会			- 情報収集ツールの高度化、ドローンの運転者育成等 - ドローン調査結果の活用 - 高精度な浸水状況自動検知システムの活用等情報のリアルタイム化 等 - TEC-FORCE支援アプリの活用実践 R6年元旦発生の能登半島地震のTEC派遣において、「TEC-FORCE支援アプリ」を活用 - Car-SATによる情報収集訓練

・リモート用地協議等の推進



令和6年度 四国地方整備局 インフラDX推進本部会議

審議事項

令和7年2月25日(火)



SHIKOKU
INFRA
DIGITAL
TRANSFORMATION

四国として進めるインフラDXの方向性

令和3年8月24日

令和3年度 第1回 四国インフラDX本部会議 より

「働き方改革」⇒「担い手確保」⇒「事業継続維持」のために！

を進め

につなげ

を果たす

技術力の底上げをサポートし、ICT技術活用の裾野・建設業界を目指す人材の裾野を広げる

四国として進めるインフラDXの3つの方向性

令和4年3月15日

令和3年度 第2回 四国インフラDX本部会議 より

- ★ 地域建設業 担い手確保 （ICT技術を活用した生産性向上、働き方改革）
- ★ 行政手続きや暮らしにおけるサービスの改革
- ★ 四国地方整備局 職員の働き方改革（デジタル技術を活用した業務の効率化・高度化）

【審議事項】

令和7年度は 働き方改革を進め 担い手確保に向けDX実践

官民双方の生産性向上・働き方改革等の取り組みを推進するため

- ・各部会のロードマップを着実に実行し、スピード感を持って結果につなげ効果を把握
- ・デジタル技術の「普段使い」を目指し、業界&職員各々で実践し技術や好事例をシェア
- ・職員向けのDXの更なる推進のため、各部会で実践するとともに好事例をシェア
- ・事務所も含め推進体制を強化し、事務所マネジメントにDX技術を活用

令和7年度の重点取り組み【審議事項】

テーマ1：「地域建設業の担い手確保」

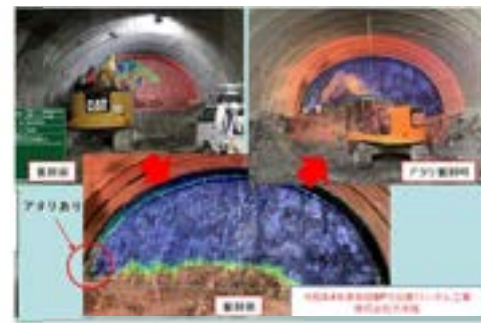
1. i-Construction2.0等の実践

- ・ 施工現場のオートメーション化、省人化に向けi-Con2.0やStage II進める必要。

- ① 抜本的な生産性向上を実現するため、大規模な土工の現場において、ICT施工Stage II相当の工事に取り組む



建設機械やダンプの稼働状況をリアルタイムに把握し、土量に適した資機材の配置を見直し

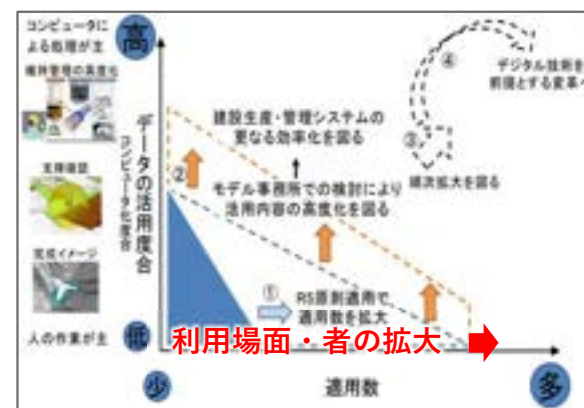


LiDARとプロジェクションマッピングにより掘削面の状況を確認した例

2. BIM/CIM活用の実践

- ・ 令和5年度にBIM/CIM原則適用が始まり、業務・工事とも活用が増えているが、活用効果の発揮には、活用シーン等の拡大・職員が日常的に触れる機会が必要

- ① 令和7年度は、設計説明会、現場見学会、3者会議研修などの場でBIM/CIMを活用する



BIM/CIM展開のイメージ

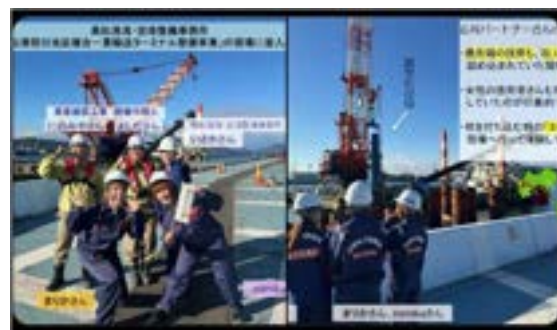


段階確認の際、ARによる出来形ヒートマップを用いた例

3. 「見せる（魅せる）現場」の設定

- ・ ICTやBIM/CIMなどは工事・業務単発での活用が多く、本来のデータ連携に生かせていない。

- ① ICT/i-ConやBIM/CIMを集中的に取り組む事業・工区（地区）を各事務所等で設定し、データ連携の効果を発揮につなげる
- ② 見学会や体験会等を通じ、対外的に見せて行く



オフィシャル広報パートナーによる発信



インフラDXモデル工事での参観日の様子

以上を各部会で取り組む。

令和7年度の重点取り組み【審議事項】

テーマ2：「行政手続きや暮らしにおけるサービスの改革」

- ・四国地整（ホームページ）での、手続きやデータの公開状況は下表のとおり
- ・引き続き、**行政手続きのデジタル化やデータ公開**に努める。

行政手続等のデジタル化一覧（1／2）

部名	名 称	オンライン 申請	申請様式 公開	データ 公開	備 考
総務部	1 情報公開 開示請求	○	○	－	
	2 入札 電子契約システム	○	○	○	
	3 競争参加資格審査申請	○	○	－	
	4 国有財産先着順売却	－	○	－	
	5 災害用備蓄食品の有効活用について	○	○	－	
	6 社会人経験者採用 個別WEB説明会	○	○	－	
	7 採用面接事前予約	○	○	－	
企画部	1 四国地方整備局の予算	－	－	○	メールかFAXで申請
	2 出前講座	○	○	○	メールかFAXで申請
	3 工事現場等見学ガイド	○	○	－	
	4 インターシップ	○	○	－	
	5 インフラツーリズム	－	－	○	
	6 オフィシャル広報パートナー取材申し込み	○	○	－	
	7 ICT専任講師の登録	○	○	－	
	8 四国内の工事・業務の発注見通し情報	－	－	○	
	9 橋梁点検車の貸与について	－	○	－	
	10 河川・道路管理用光ファイバー及び収容空間の民間開放	－	○	－	
	11 工事関係書類	－	○	－	
	12 土木営繕工事関係書類	－	○	－	
	13 技術検定合格証明書関係	－	○	－	
	14 橋梁点検車の貸与について	－	○	－	
	15 災害時における緊急復旧等の実績確認書交付申請書	－	○	－	
建設部	1 建設業許可申請	○	○	－	
	2 経営事項審査	○	○	－	
	3 宅地建物取引業の免許申請	○	○	－	
	4 マンション管理業の登録申請	－	○	－	
	5 マンション管理業務主任者の登録	－	○	－	
	6 賃貸住宅管理業者の登録	○	○	－	

行政手続等のデジタル化一覧（2／2）

部名	名 称	オンライン 申請	申請様式 公開	データ 公開	備 考
建設部	7 不動産鑑定士の登録	－	○	－	
	8 不動産鑑定業者の登録	－	○	－	
	9 住宅宿泊管理者の登録	○	○	－	
	10 測量業者の登録	○	○	－	
	11 建設コンサルタントの登録	○	○	－	
	12 地質調査業者の登録	○	○	－	
	13 浄化槽整備士免許の交付・書換え・再交付	－	○	－	
	14 住宅瑕疵担保履行法に基づく資力確保措置状況の届出	○	○	－	
	15 造園施工管理技士証明書の書換え・再交付	－	○	－	
	16 宅地造成規正法施工令に基づく擁壁認定	－	－	○	
	17 登録住宅性能評価機関の登録	－	○	－	
	18 登録省エネ判定機関の登録	－	○	－	
河川部	1 河川法に係る許可申請書について	○	○	－	電子メールによる受付（事前に窓口への問い合わせが必要）
道路部	1 特殊車両に係る申請手続き	○	○	－	
	2 道路占用許可に係る申請手続き	○	○	－	申請様式はシステム利用申請書を掲載
	3 承認工事に係る申請手続き	○	○	－	（申請様式等公開準備中）
	4 道路予定区域の土地の形質の変更等許可	○	○	－	（申請様式等公開準備中）
	5 道路交通の現状・交通量データ（交通量）	－	－	○	
	6 道路交通の現状・交通量データ（交通事故状況）	－	－	○	
	7 道路台帳	－	－	○	
	8 区域変更・供用開始等の告示・縦覧資料	－	－	○	
港湾空港部	1 PSCカードに関する各種手続（出入管理情報システム）	○	○	－	
	2 オンライン申請が可能な手続一覧（本省で受け付ける手続、令和3年11月1日現在）：87手続	○	－	－	https://www.mlit.go.jp/commmon/001442292.pdf
	3 高知港海岸の占用等の申請手続き	－	○	－	
	4 海とみなとの相談窓口	○	－	－	
	5 国際物流目安箱	○	－	－	
	6 災害用備蓄食品の有効活用	－	○	－	
営繕部	1 施工管理技術検定関係	－	○	－	
用地部	1 補償コンサルタント登録等	○	○	－	e-Gov
計		30 手続き	46 手続き	10 手続き	

テーマ3：「四国地方整備局職員の働き方改革」

① 事務所マネジメントへのDX活用

●各事務所の課題を抽出して事務所マネジメントにDX技術を活用

ex) 事業の発注～完成、維持管理、開通に向けた関係部署間のマネジメント等

- ・ 時間軸に応じた課題を見える化、情報共有、フロントローディングにより、手戻り・遅延・停滞を回避したマネジメントを実践
- ・ 職員（事務・技術）、受発注者間等の関係者との連携を意識

●実践した結果の取りまとめ・評価を通じ横展開を図る

② 業務の取捨選択とデジタルツールの積極的活用

●DX推進体制の強化

- ・ 各部会・事務所にDXマネジメント者、推進リーダーを配置しDX推進体制を強化
- ・ 「マネジメント者」による真に行うべき業務の取捨選択
- ・ 「推進リーダー」を中心に、DXの一層の活用・実践により職員の働き方改革を更に推進

●DXの普段使いの実践

- ・ Teams、Forms等の普段使い（効率化ツールや個別テクニックの展開を継続）
- ・ 好事例の横展開（勉強会、セッション等の開催継続：定期的に開催）